報　告

第35回医学情報サービス研究大会　参加記

藤原　純子

2018年8月4日（土）～5日（日）に国立オリンピック記念青少年総合センターで開催された第35回医学情報サービス研究大会（以下、MIS35）に参加した。今回は6年ぶりの東京開催で、東京サマーフェスティバル2018をテーマに、グッズや抄録集など各所に夏祭をイメージにした演出が施された（図1）。参加者数は300名と発表があり、多くの参加者でにぎわった。

今回特に感じたのは、病院図書館担当者からの発表数が増加したことと、公共図書館の参加者が増加したことである。また、大学、病院、公共図書館の共同研究発表など連携が各所であり、医療情報サービスの広がりを実感した。

今回の目玉でもある埜納タオ先生の特別講演「物語の力をかりて理想の図書館を描く ―『夜明けの図書館』制作過程を交えて ―」は、先生の作品「夜明けの図書館」の制作過程や作品に関するお話、参考に見学に行かれた図書館の様子などがイラストや写真スライドとともに語られた。実は事前に実行委員の方のご紹介で当院図書室にも見学とインタビューにお越しいただいており、本当に資料も少なく小さな図書室をお見せして良かったのか不安であったが、病院図書館のいろいろな話を積極的に聞いてくださり、講演でもご紹介いただきとてもうれしかった。当院では分類にNLMCを使用しており、先生がとても興味を持たれていたのが印象深かった。講演の後半は協力者で公共図書館員の吉田倫子さんとの対談形式で、事前に寄せられた先生や作品への質問や会場からの質問に答えられた。時々笑いのおこる楽しい対談であった。その後の作品購入特典のサイン会も盛況で先生の人気がうかがえた。

図1　抄録集と大会バッグ

「口頭発表A（O-01～04）：公共図書館」公共図書館より2題、大学と病院図書館の共同研究2題が発表された。口頭発表Bにも共通して、「選書」がテーマになった研究発表が目立った。公共図書館では図書の提供が必要とされるが、一般利用者を対象に出版された図書には商品の宣伝を目的とした図書や治療否定本など信頼できない書籍が多く選定が難しい。そのためそれぞれの館での工夫や、医療機関や大学との連携がみられる。病院図書館や病院医療従事者との連携を希望してもどこに相談したら良いかわからない、など連携の窓口を模索する場合もあるようで、私たち病院図書館からも連携しやすい雰囲気を作ることが必要だと感じた。今後、MISや研修会などへの公共図書館の参加はさらに増加すると考えられるが、病院図書館以外の図書館関係者ともつながりを作ることが連携の一歩となるだろう。

プロダクトレビューでは1日目に8社、2日

ふじわら　じゅんこ：加古川中央市民病院　図書室

目に7社から最新情報の案内があった。間もなく始まる購読雑誌やデータベース契約更新に備え、有益な情報が得られた。

ポスターセッションは企業展示会場と同じ会場で行われ、30分で大急ぎで回った。今年も企業展示シールラリーが行われ、さまざまな企業のブースを回ることができた。

口頭発表B（O-05～08）：サービス・資料では、来館者数増加への取り組み、ILL、選書、抄録集の収集といった興味深い演題が続いた。

1日目のプログラムを終え、懇親会は同施設内のレストラン「とき」で行われた。懇親会の参加者も例年以上の参加者数だったように感じる。東京開催ということもあり、MIS常連の大御所のお顔も多数拝見した。懇親会は、サマーフェスティバルだけに、かき氷、綿あめ、チョコレートフォンデュ、駄菓子コーナーなど夏祭りを感じさせる楽しい趣向がこらされていた。普段お会いできない全国の病院図書館員の方や大学図書館の方、以前研修でご一緒した公共図書館の方、お世話になっている企業の皆さんともお話しできる貴重な時間であった。

2日目の口頭発表C（O-09～12）：Web・歴史では、Webサイト構築、データ管理計画、医史跡案内、郷土資料からその土地ならではの医療教育や取り組みを調査した結果など、どれも発表までの過程と今後の発展が楽しみな演題であった。特に小嶋氏が発表された「ライブラリアン主体の医療・健康情報サイトhlib.jp」は、今後の動向に注目したい。

参加者企画は3つの企画が事前に告知され、期日までにエントリーして参加する。空席がある場合は当日参加も可能である。私は済生会図書室連絡会企画の「ワンパーソンライブラリーの生産性向上を目指して ―インバスケットゲームを利用したワークショップ―」に参加した。インバスケットゲームとは、アメリカの空軍で生まれたトレーニング方法で、制限時間内に架空の役職・人物になりきり案件を処理するビジネスゲームである。事前にゲームのルールや自分がなりきる「わたし」の設定を読んでから参加する。今回の設定では、「わたし」は育児中の病院図書館職員で非常に時間的制約のある中で数十件の案件を処理しなければならない。この設定が現実だったらきっと「詰む」…と思いつつ、ワークショップに臨んだ。当日のワークショップでは、まず自分一人で案件の優先順位を検討する。次に4名ずつの2グループにわかれて相談しながら模造紙に発表資料を作成する。最後にそれぞれのグループから発表する。時間、相手、期日、連絡方法など案件のさまざまな点に注意しながら処理プランを決めていく作業は、同じグループの参加者から学ぶ点も多く面白かった。2つのグループでも優先度や処理方法が異なる場合があり参考になったし、最後の済生会グループからのフィードバックでは私たちが見落としていた点を指摘いただき感動した。実務に直結する素晴らしい企画だった。

口頭発表D（O-13～017）：データベース・分析は5つの発表があり、どれも病院図書館でもなじみ深いツールや内容に関する分析で参考になった。口頭発表については、両日とも全ての演題の抄録がMIS35ウェブサイトに公開されているのでぜひ読んでいただきたい。

閉会式では、大会1週間前に逝去された札幌医科大学の今野穂氏のMISにまつわるご活躍が紹介された。大会運営を通して地域の人的ネットワークを作られた功績を称え悼んだ。また、医学情報サービス研究大会が「第15回情報プロフェッショナルシンポジウム（INFOPRO2018）」にて「優秀機関賞」を受賞したことも報告された。

次回大会は2019年8月11日～12日に福岡県の九州大学医学部百年講堂で開催される。会員の皆さまも多数参加されることを期待する。

さいごに、MIS35の準備や運営にご尽力くださった実行委員会や幹事の皆さま、発表者や講師、企業の皆さま、そして会場でご一緒し共に学ばせていただいた皆さまに感謝申し上げて参加のご報告とさせていただきたい。